

# 【埼玉県熊谷市】 令和5年度 地方公共団体における効果的な熱中症対策の推進に係るモデル事業

## 現在の課題

- ①高齢者の熱中症対策への認知が広がっていきなく熱中症に罹患し重症化するケースも散見されており高齢者への働きかけが十分とは言えない。
- ②熱中症警戒アラートについて、防災無線や青パトロールでの啓発を行っているが、さらなる市民への周知が課題となっている。

## ①熱中症警戒アラート発表時に備えた対応の策定

アラート発表時には健康づくり課から関係各課へ情報伝達を行い、各課が所管する施設や関係団体等へ確実に周知できる体制を構築している。市民全体に対しては巡回広報、防災行政無線、熱中症予防情報メール、メール配信サービス、ケーブルテレビやコミュニティFM、ホームページ等による周知を図っている。

## ②高齢者を対象とした熱中症予防行動の効果的な情報発信

防災無線放送と青色パトロールにて情報発信を実施し、熱中症警戒アラートの発令時は、通常と異なる文言で啓発している。また、デジタルサイネージを活用した情報発信も実施する。(④の項目に記載)

## ③庁内における横断的連絡体制の整備

庁内の横断的な連絡調整は、部長を委員とする経営戦略会議が担っており、夏期の会議において、消防本部から報告される市内の熱中症救急搬送状況や熱中症警戒アラートでの対応方針等について共有している。

## ④熱中症対策に関連して地域で活動する団体との協働

株式会社伊藤園と連携し自動販売機にデジタルサイネージを組み込み、高齢者施設や病院、商店など高齢者の利用が見込まれる施設に設置する。デジタルサイネージではクーリングシェルターの告知や暑さ対策の取り組み紹介、市内の温度の表示など、暑さ予防・対策の案内を積極的に行うことを検討する。そして昨年同様一般社団法人アツいまちとも連携をして、メディアを活用した暑さ対策の浸透を図っていく。



サイネージ（自販機）



2022年NHK

## ⑤クーリングシェルターの指定・開放に向けての試行

熊谷市では夏季に「まちなかオアシス事業」として、一部公共施設を一時的な休息所として開放しているが、過去に例のない大熱波を想定した体制までは整えられていない。そのためクーリングシェルターとして指定・開放に向けた試行を行う。



まちなかオアシス

## ⑥若者への熱中症対策の訴求と関心づくり

昨年度実施したあつさたいさくコンテストを継続して実施し、家族で暑さ対策について考える機会を作る。また、市民の認知を高める為、展示やアツいまちサミットのメディア露出や商品流通を通じた発信をする。



2022年表彰式



2022年展示

## 実施スケジュール（実施まで）

4月	庁内体制整備、取組の企画調整開始
5月	サイネージコンテンツ制作、あつさたいさくコンテスト打合せ開始
6月	サイネージ環境準備、アツいまちサミット参加 あつさたいさくコンテスト募集開始
7月	デジタルサイネージ運用開始、あつさたいさくコンテスト結果発表 商業施設での暑さ対策の発信
8月	あつさたいさくコンテスト表彰式 商店街、大型商業施設、熊谷駅等での作品展示
9月 10月	リスク評価や試行的実施結果の検証 環境省に中間報告書を提出 デジタルサイネージ運用停止